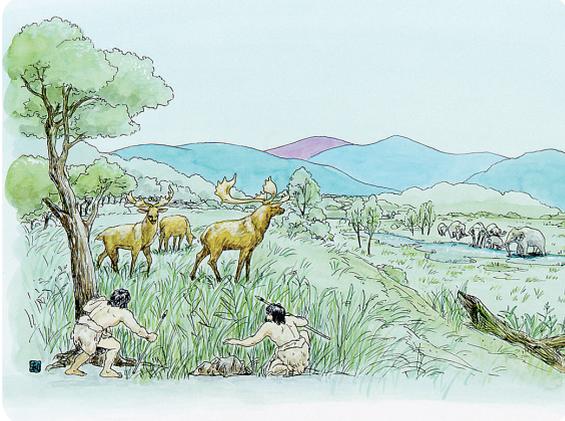


狩猟と採集



石器時代ともいわれる縄文時代、この時代にはやりやりさきさきや弓の先端部、もりもりなどの狩猟具、ケモノの皮を剥ぐいしさじさじや穴をあけるきりきりきり錐などの工具があります。これらの工具は石材を加工して作られます。

石器製作は、厳選され

狩猟風景想像図（早川和子作画：亀岡市教育委員会提供） た石材を採取するところから始まります。ケモノの皮や肉を切断する石器には堅くて鋭利な刃先が必要で、矢に装着する石鏃にも鋭利な刃が必要です。そのため、こくようせき黒曜石（天然の火山ガラス）やサヌカイト、硬質の安山岩やチャートといった石材で製作します。一方、堅果類を砕き、粉にするいしざらざら石皿や磨石、すりいしすりいしたたきいしたたきいしには鋭利は刃先が必要ありませんので、砂岩や安山岩を使います。縄文人は作る道具によって石材を使い分けていました。

砂岩や安山岩は日本列島の広範囲に分布している石材で、どこでも採集できますので、ムラの近くの河原で採取されたのでしょう。それに対して、鋭利な刃物に加工する石材は限られた地域だけに分布しています。黒曜石はガラス質の火山岩で、石英を多く含みます。主な産地としては長野県和田峠周辺、東京都神津島、鳥根県隠岐島などが知られています。サヌカイトは輝石安山岩といい、紀伊半島中部から四国北部などに分布しています。奈良県と大阪府の境にある二上山や香川県に良質のものが産することが知られています。

これらの石材は産地が限定されるため、遠く原産地にまで石材を採りに移動したり、どこかの中継地で完形品や製作途上の半成品、または原石などを物物交換で手に入れたと考えられます。



黒曜石を使ったヤリの模型

京都府内では縄文時代草創期を特徴付ける槍先が各地で見つかっています。亀岡市鹿谷遺跡では黒曜石製の木の葉の形をした石器（木葉形尖頭器^{ろくや}）、サヌカイト製では福知山市引地城跡、亀岡市千代川遺跡などで有舌尖頭器（有肩尖頭器^{ひきち}）が出土しています。石材が遠隔地にしかないことから、縄文時代の早い段階から、遠い地域と交易をしていた証拠となります。

道具に適した石材を確保すると、石材（石核）を欠き砕き、用途にあった道具に加工していきます。加工する道具には石とともに鹿の堅い角などが利用されています。

もうひとつ縄文時代の主要な食物である植物類の採集や加工にも石器は用いられています。根菜類を掘るための打製石斧、ドンダリなどの堅果類を磨り潰すための石皿と磨石は生活の必需品です。そのため、これらの石器は多くの遺跡から出土しています。おもしろい例として、舞鶴市桑飼下遺跡^{くわがいしも}で打製石斧が751本も出土しています。何に使ったのでしょうか。（黒坪一樹）



平石を台に丸い石で磨り潰す